



支部だより

日本心臓ペースメーカー友の会

岐阜東美濃支部 第7号（盛夏号）



多治見市民病院副院長・統括内科部長 愛知医科大学客員教授
愛知県支部・岐阜東美濃支部顧問医 福田 元敬

ペースメーカー友の会岐阜東美濃支部の皆様へ

お元気でお過ごしでしょうか。新型コロナウイルスが2類から5類に変更され、世の中が少し明るくなってきたことを本当に喜ばしく感じています。この数年間、新型コロナウイルス感染症の影響で私たちの活動が制限されていたことをお詫び申し上げます。皆さんもご存知の通り、パンデミックの間は多くの制約や不安がありました。しかし、この長い闘いの末、やっとコロナが明け、私たちの活動が再開できる喜びを感じています。

ペースメーカー友の会は、心臓の病気を抱える患者さんたちの絆を深め、情報交換や支え合いを行う場として多くの方にとっての心の拠り所となってきました。一緒に笑い合い、涙を分かち合うことで、私たちは力を得てきました。そして、この団体が活動できることで、私たちは一層希望を持ち、前向きになれるのです。

感染症の影響により、私たちは長い間、対面での活動やイベントを制限しなければなりませんでしたが、医療の進歩と皆さんのご協力により、ワクチン接種や感染対策の徹底など、様々な努力が実を結びました。現在、感染症の状況は好転し、私たちの活動が再び始まる兆しを感じています。先日、友の会の総会や、愛知支部会に参加でき久しぶりに懐かしい皆様に直に会ってお話をすることができました。

皆さんには、これまでのご辛抱とご理解に深く感謝いたします。私たちの団体は、一人ひとりが心臓疾患を抱えながらも、互いに支え合い、勇気を与え合う大切な存在です。この喜びを分かち合い、新たなスタートを切ることで、より一層結束を深めていきたいと思っております。

今後の活動については、感染症対策を徹底しながら、少しずつ段階的に実施していければ幸いです。リアルな交流の場を再び創り出すために、必要な措置を講じながら、皆さんとの再会を楽しみにしています。

最後に、この支部だよりを通じて、私たちの団体の一員であることに誇りを持ち、互いの絆を大切にいただけることを願っています。心臓疾患を抱える方々にとって、ペースメーカーは新たな命の躍動をもたらすものです。私たちは、それぞれのペースメーカーが、心地よいリズムで未来へと導いてくれることを信じています。未曾有の困難を乗り越え、やっとコロナが明け、私たちの活動が再開できることに感謝しながら、新たな時代への希望を胸に、皆さんと共に歩んでいきたいと心から願っております。

ペースメーカー友の会の一員として、これからも皆さんと共に力を合わせ、心の支えとなる存在であり続けます。どうぞ引き続き、温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

心からの感謝を込めて。



アメリカ東部への旅

11278 水谷 信子

5月23日～30日、アメリカ東部のツアーに参加しました。

コロナウィルスの収束、ペースメーカー装着2年後で、年齢的にもこの時期が最後の？チャンスと思い旅行を決断しました。

心配していた空港でのボディチェックは、アメリカではボディースキャナー（金属探知機から出る電磁波に比較して、医療機器へ与える影響が小さいとされる）を通過し、検査員によるボディチェックで完了です。思っていたより簡単でした。

訪問先はボストン、ワシントン、ニューヨークです。

最初に訪れたのは歴史的な都市ボストンで、アメリカ独立戦争時代の建物や、戦争の契機となったボストン茶会事件などの重要な舞台となった場所です。またアメリカ最古の大学であるハーバード大学構内を散策し、翌日に卒業式を控えた黒い制服姿の卒業生や、その家族の喜び溢れる姿を見ることができました。

ワシントンDCではホワイトハウス、国会議事堂など有名な建造物、美術館を見学し、スミソニアン航空宇宙博物館でのアポロ11号の宇宙船に書かれている、ニール・アームストロングの有名な言葉「that's one small step for man, giant leap for mankind」を実際に見て、彼らの偉業に感動しました。

ニューヨークでのメインはリバティ島に立つ高さ93mの自由の女神像です。その姿は抑圧からの解放と、人類の自由を象徴する、かつては大量の移民がこの像を目指してアメリカに渡ったとされる場所に立ち、当時の人々に思いを馳せました。2001年のテロ事件により破壊されたワールドトレードセンター、その跡地に建ったワンワールドトレードセンターとグラウンドゼロなど様々な顔を持つニューヨークに出会いました。

またツアー最後の日フリータイムにアメリカに赴任している息子家族と再会して楽しいひと時を過ごしました。今回はアメリカの歴史を再認識する有意義な旅でした。この旅行に行くことが出来たのも家族の理解や、ペースメーカーのお陰だと改めて感謝しています。



ハーバード大学構内



航空宇宙博物館内



ツアーの友達（左）と

「夏の思い出」

10876 星崎 大和

2年後の大阪万国博覧会の入場料7500円に決まったとのニュースがありました。1970年の大阪万博の時は800円だったとのこと、6400万人以上の人々が会場を訪れて大盛況、大混雑とのニュースが連日流れた暑い夏となりました。その夏に、大学4年生の私は就職も決まり、山好きだったこともあり、信州・小諸市郊外の高原にある山荘のアルバイトに、夜行列車に揺られて出かけました。その時の日当が800円（食事付）でした。標高2000m近くの高原で本当に涼しいの2ヶ月余日々でした。仕事は山荘のお客さんの接待、キャンプ場管理補助、高山植物保護監視員等、各地から来たアルバイト仲間と共に励みました。昼間は落葉松林で鳴くカッコーの声を聞きつつ、レンゲつつじ、湿地帯に咲くヒオウギあやめ、マツムシソウ、ヤナギランと季節の移ろいとともにも咲く花を眺めつつ、大阪の雑踏を想像して万博には行こうとは思わず、夏の終わりまで過ごした。夏の終わりの高原は、人波が去り人影も少なく、ものさびしさをも感じるような静けさの風の中、白雲がゆっくりと流れるように夏が去ってゆきます。あれから50余年、世の中の経済発展の幸運もありアルバイト賃金は10倍以上にもなり、隔世の感があります。

私達ペースメーカーの患者も数十年前の医療環境と比較して、すごく安心して手術でき、その後の生活（ＱＬ）も向上して日常生活を送れることは、本当によかったと思います。PM友の会を通じて、術後の不安等を少しでも少なくできることを期待してゆきたいです。

2023年盛夏



シラカバ



コマクサ



チングルマ

鵜の目鷹の目

ふりそぐ光になかで、子供たちが玉のような汗を流している。泥まみれの汗もあれば、きれいなビーズのような汗もある。子供たちの汗には、ほのかな汗くささがあるが、決して不快な感じは受けない。干し草の匂いならぬ若草の匂いだ。われわれ人間ほど、何かにつけ汗をかく動物はいない。人間の汗には、体温調節のための発汗のほかに、興奮や感動がおこす精神性発汗がある。手に汗をにぎったり、頭から湯気を出したりするのは、「心でかく汗」だ。汗腺は、体に200万個あるが、手のひらと足の裏がその過密地帯。この二か所は、いつも少しずつ発汗しているが、ハラハラ、イライラするとどっと出てくる。これは、いざ逃げる時、滑らないように適度な摩擦を与えるためだという。(滑り止め効果) 汗っかきの人は精神的に興奮しやすいのだという。「暑い、暑い」とイライラすることがストレスとなり、大汗をかく原因となるわけだ。力士が仕切りにはいると汗がさっと引き、取り組み中は全くかかない。精神を集中すれば汗も止められる。「心頭を滅却すれば火もまた涼し」の心境である。(1)

体 験 中

10980 早川 紀代

この6月で、ペースメーカー植え込みから丸5年。

ここまですまいや動悸などもなく順調にきていました。しかし今年に入り、名大の先生から2度も電話があり、心房細動が出るからアブレーションの治療をやりましょうか・・・と。

結局6月末に4泊5日の予定で治療をやることになりました。

入院当日は経食道心エコー検査があるとのことで、胃カメラもやったことのない私としては不安しかありません。しかも子供の頃に、心房中隔欠損症の手術をしているので、ちょっと厄介だなあ・・・と言われ、これまた不安はつります。

そして私にはもう一つ不安要素があります。

昨年の2月、50年振りかと思うぐらい久々に急に鼻血が出たのです。

週に3～4回 朝晩2回出ることもありました。大抵は30分ほどで止まりますが、一時間以上止まらず、耳もポーンとして、目からも出血するので夜間救急で県立多治見病院に走り、止血してもらったことも3回ほどありました。

カメラも届かないもっと奥だから焼くこともできないとのことでした。

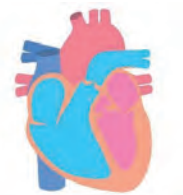
この鼻血がおさまるのに4カ月かかりました。

この6月に入り、また一年振りに鼻血が出ました。 夜間救急に走ったりもしました。 また以前のように続くかと不安がよぎります。

リクシアナを飲んでいるので出血しやすいのはわかっていますが、こんな状態でアブレーションをやっても良いものかと。 耳鼻科の先生は鼻血と心臓は関係ないから大丈夫と言われましたが・・・。

今はまな板の鯉状態で鼻血、ウイルスなどに気をつけ、スリリングな毎日を過ごしています。

皆さんはアブレーションの経験はおありですか？ また教えてください。



編集後記

東海地方は20日に梅雨が明けて以来、暑～い、暑～い日が続いていますが皆さんお変わりないですか。今回の支部だよりも、皆さんのご協力のおかげで発刊できました。誠にありがとうございました。会員間のコミュニケーションを図るうえで必要な「支部だより」です。今後とも皆さんからのご投稿をお待ちしております。

今年こそは皆さんとお会いできることを願っています。食事会、茶話会、勉強会・講演会など一つでも実現できればと思っています。何か良いアイデアがあればご連絡ください。(藤田)